

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム かがやき 2階ユニット「にじ」	評価実施年月日	平成19年5月23日
評価実施構成員氏名	佐藤 章治 土橋 弘恵 喜瀬 茂 水上 弘子		
記録者氏名	佐藤 章治 水上 弘子	記録年月日	平成19年5月24日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価が今回初めてなので、取り組み始めたばかりである。事前に会議にて、全職員に自己評価及び外部評価の目的を説明・周知を行っている。</p>	<p>今後、評価をどのように活用していくか、体制づくりを行っていく。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議にて評価の公表を行い、意見交換を行っている。その後代表、管理者、計画作成担当で再度検討しサービス向上を図っていく。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議以外には行き来する機会は実施されていない。</p>	<p>今後定期的に積極的な情報提供や共有を行い、いろいろな課題にも一緒に解決を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>開設時研修に説明を行い、現在は該当利用者については、各関係者と話し合い、制度利用の申請を行っている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>啓発のポスターを掲示したり、関係資料を全職員に配布するなどして、徹底防止に取り組んでいる。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>口頭や書面により説明を行っている。また質問等随時受け付けをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム入り口にポスターや苦情受付箱を設置したり、管理者や職員が信頼関係を構築し、利用者から意見等を聴く機会を設けている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に説明を行ったり、ホーム便りを定期的に発行を行っている。また、個別に便りをだしたりしている。		職員の異動に関しては今後、事前に掲示やホーム便りにより知らせるなど検討を行う。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情相談機関を記載したり、ホーム入り口にポスターや苦情受付箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議やその都度意見を取り入れ、反映または検討している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の活動時間など考慮し、調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は必要最小限にとどめ、離職希望者には新しい職員の引継ぎ期間を設ける努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>経験年数や資格に応じた、受講可能な外部研修に積極的に参加できるよう配慮している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者、職員は他法人のホームと情報交換をしたり、相互訪問をして交流や連携を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>不公平感を持たないように、小規模組織の特性を活かして、家庭的な働きやすい環境を提供するようにしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格手当や昇給、役職昇進などがあるが、さらに働きがいのある職場環境を整えるため、現在、職員の勤務評価項目をきめ細かく設定し、待遇の反映されるようにしている最中である。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居以前に、管理者や職員が家庭や入院先等へ必ず面談・訪問を行い、ご本人の意向を聴いたり、当ホームについて懇親丁寧説明をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初回相談から職員は、家族等が利用者本人のことなどのいろいろな思いを傾聴・共感し、その立場たった受け止め方を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険の申請や入居申込みなどの相談が主だが、アドバイスや他サービスや制度利用などの紹介を行ったりしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験利用による雰囲気の慣れや、入居時に明るい職員の配置や、イベントの挿入、好みの献立など早く馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「その人らしく」をモットーに「共に生きる」「仕事ではなくて一緒に生活する」ということを基本にケアを行っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員がご本人の笑ったり、嬉しがったりしている様子を家族に伝えたり、または相談を行ったりして介護参加を促している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	すぐではないが、いままでの家族関係を踏まえ、利用の様子を説明したり、面会や行事の家族参加を呼びかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前までの医療機関を大切に、なじみの病院・主治医との関係が続けられるよう支援を行っている。また、頻回ではないが大切な人に会いに行ったりする機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の家族感が形成されるよう、日々外出やレクリエーション等行っている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在まではこのようなケースは生じていないが、今後発生した場合は関係を大切にしたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各職員が時間や場面に応じて、本人に直接聞いたり、家族への質問など、把握に努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、生活スタイル、性格、趣味など本人や家族、知人、関係職員からの情報収集を行っている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、一日の流れの中で、ユニット職員がその人のできること・理解できることの発掘に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	画一的な日常生活動作や、周辺症状のケアだけでなく、生活意欲・生きがい・役割感の構築など、本人がより一層充実した生活が送れるように日々ミーティングや毎月のユニット会議で話し合いを行っている。また、家族面会時にケアへの要望を募っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	更新時や区分変更時に介護計画を新たに作成をしている。3ヶ月ごとに評価を行い、状態変化が大きい場合は随時、または継続した状態が続く見込みがある時には、介護計画を関係者と話し合い作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	できるだけ記録に残すようにしているが、十分とはいえず、情報の共有にも改善の余地がある。		介護の実践や気づき、結果などの記録を残したり、記入方法の見直しを図ることが情報の共有に繋がるので、職員で改善方法を話し合っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	支援ができるようにその都度職員で検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のコミュニティーセンター行事に参加したり、ボランティア訪問行事を行う予定である。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	市のオムツサービスやタクシー利用券や身障制度、介護タクシーや福祉用具購入やレンタルなど、本人の必要性に応じて支援を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域の介護予防センターのケアマネジャーと定期的に各保険サービスや法や制度について話し合い、連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム職員に看護師保有者が勤務しており、日常的に都度、報告・相談を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて、認知症専門医の受診などに同行し、職員が状況を報告したり相談を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として平日日勤帯で看護師職員が勤務しており、相談や健康管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向け、入院先への情報提供や面会を頻回に行うようにしている。また、入院が検討される場合には、家族と職員が医療機関へ同行し、関係者を交えて話し合うことにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	日常の健康管理や急変時の対応についての話し合いは、家族や本人と話し合いをおこなっている。重度化した場合については一部のみの話し合いに留まっており、また、全員で方針を共有するに至っていない。		早急に本人や家族と話し合い、重度化した場合や終末期における支援など書類として記録・共有化を行い、また、定期的や適時に確認を繰り返すようにしていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期の利用者支援は開設以来、該当者はなく、事業所での対応可能範囲や職員の不安なことなどの話し合いは行われていない。		関係者での話し合いを早急に設けて連携体制作りに取り組んだり、職員の内外研修にて不安材料解消に望んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者や家族と入居前にアセスメントを行い、入居後は本人の不安や混乱が生じないようにケアに繋がったり、面会を多くして頂き情報収集に常に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々の生活やペースを尊重し、思いやりのある言葉や、温かみのある対応を行っている。記録等の個人情報はスタッフコーナーにデスク内(鍵付)に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己選択・自己決定を引き出す声かけや状況を整えたり、時間帯を工夫したり、表情など気持ちの汲み取りを行うなど職員が工夫をしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事前の計画的ではなく、天候や個々の利用者の身心状態を臨機応変に対応して、日々のミーティングなどにより、入居者が一日一日を自分のペースで暮らせるよう話し合い、強制せず支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の希望に沿った髪型や髪色にしている。訪問理美容以外にも希望があればいつでも相談に応じている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の買物や準備・片付け・食事は日常的に利用者と職員が共同して行っている。食べたい物や食べにいきたい場所などには、随時・個別に聞き取りを行い実現に取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人の嗜好品には、生きがい、楽しみなどがあり、可能な限り続けられるよう配慮している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄支援については、本人自身の自信の確立や自尊心などが多く含まれており、個別排泄記録をつけ個別に対応している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>一人ひとりの入浴希望や日・時間帯・湯温など毎回希望を聞き、個々に合わせて支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>日中の睡眠時間をなるべく少なくするよう配慮し、昼夜逆転が起こらないよう、日課や訪室を心がけている。夜間はひとりずつ、安心して穏やかに夜間過されるよう声かけや照明、湿度・温度の調整を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>生活意欲向上の為に、家事や外出、趣味など個々に合わせた支援を行っている。また、できること、興味あるものの探求や発掘を職員が毎日努めている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の中で管理可能な方は本人に行っていただいている。また、管理不十分な方でもご本人の前で説明、支払を行い安心感の提供を支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物、外食、地域の催し物など、本人の要望に答えて、外出機会をできるだけ多くするよう心がけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人・家族より希望があれば、可能な限り支援できるよう配慮している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人が電話のやりとりが行いやすいように、子機対応にしている。手紙については代筆や投稿等の支援をしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問や面会時間を制限を設けず対応したり、来訪者には湯茶等の用意をしたり等工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は開設以来行っておらず、運営者や管理者及び職員は身体拘束の内容や弊害を認識をしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開設以来、日中は居室や玄関に鍵をかけずに対応している。今後とも、利用者の安全や心理的影響を踏まえ、継続できるよう努力していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフコーナーや台所、食堂にて、職員の着席方向や、声のトーンなど配慮し、さりげない見守りを行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、各居室や鍵付保管所、共有部分に保管・設置している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故対応マニュアルを設置したり、事故が発生した場合には報告書を記入して、全職員の確認と対応方法の周知をしている。また、個別にファイルしスタッフコーナーに置いて、意識の向上を図ったり、会議にて再検討を行うようにしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当について資料等配布やスタッフの身近にマニュアルを置いてあり、各職員が各自で講習や訓練を受けているが、事業所としては定期的に行われていない。		全職員が発生時に備え、定期的に訓練を行い、当ホームを想定した実践技術を身につけていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	開設時講習や定期的点検時に職員が避難の訓練を実践し、1階の店舗にも協力が得られるよう日頃から接している。		利用者参加や他事業所共同の避難訓練の実施を行う。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	職員は、家族へのケアの取り組みや今後の予見やリスクについて、都度話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の身体状況に異常がみられる場合は記録し、看護師や医療機関、管理者へ早急に連絡する体制をとっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬ケースを個別・時間別に仕分けし、薬の説明書をファイルに綴り、内服時の確認事項等を取り決めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自然と排便できよう、運動への働きかけ、水分補給、バランスの取れた食事の提供している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に応じて、食後の義歯洗浄やみがきやうがいなどの声かけや促し、または介助支援を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量や食事量等は記録し、常食・お粥・キザミ・ミキサー食など変化に対応している。厳密なカロリー計算は行っていないが、栄養士の献立表を目安に、個別に食事作りに配慮している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成や随時最新情報の把握に努めている。また、インフルエンザ予防接種は入居者、職員共に適時受けている。流行時には事業所として取り決めをして努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や冷蔵庫、食品保管場所は定期的に清掃・消毒を行っており、キッチン毎日清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの1階はコンビニエンスストアと地域に親しみのある菓子店となっている。玄関には花や壁に装飾を施すなど工夫している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	設備や構造が家庭的ではないが、木調の物品の配置や生活空間には植物や絵画作品、装飾など、工夫して雰囲気作りをしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはダイニングセットやソファがあり、一人になったり、入居者同士で過ごす共用の場所がある。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテン、床はあらかじめ用意したものだが、それ以外はなるべく家にあったものを持ち込んでもらったり、なじみや趣味のものをもっといだけよう家族に説明している。また、本人と一緒に出かけ、本人の意向に合った購入をするようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天候や各利用者に合わせて、換気や温度の調整をしている。居室や共用部分に温湿計を配置し、冬季は各居室に濡れたタオルをかけたたり、加湿器を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、トイレ、風呂には手すりが設置されており、安全面には十分配慮されている。台所は低く設置され、洗面所は車椅子利用者が使用可能なものを設置している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>壁紙や床材などは柄のないものを使用したり、職員が入居者の場所間違えにもすばやく対応できるよう、目の届く場所にいるよう心がけている。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダには入居者が楽しめるよう、花や野菜を植えたりしている。外回りが段差のないアスファルトなので、車椅子や歩行器利用者も安心して移動訓練したり、ボール遊び等行っている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

JR篠路駅から徒歩3分の位置にあり、銀色3階建の建物となっています。2,3階がグループホーム、1階がコンビニエンスストアと千秋庵の店舗ですので、ご利用者や家族の面会時の買物などには大変便利です。駐車場も広く、冬季も除雪しており、部分的にロードヒーティングを施行して来訪しやすい環境を整えています。ホーム内はあたたかく、明るいい色を配した造りとなっています。ユニットの玄関を開け